**画一性による独裁**

原英文はVatican websiteの[The dictatorship of uniformity (10 April 2014) Francis](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/cotidie/2014/documents/papa-francesco-cotidie_20140410_dictatorship-uniformity.html)

フランシスコ教皇：画一な考え方が良心の自由(freedom of conscience)を破壊する

サンタ・マルタ聖堂における朝の黙想

Thursday, 10 April 2014

（オッセルヴァトーレ・ロマーノ週刊新聞、n. 16, 18 April 2014）半訳：齋藤旬 20171111

祭儀の説教で教皇は、Thursday, 10 April 2014の典礼聖書、創世記(17:3-9)、ヨハネ(8:51-59)についてコメントした。どの様にして、「諸国民の父」とするために「神は、私達の教父アブラハムをお選びになったのか、今日の典礼聖書は私達に教えてくれます」とコメントし、自らの意見を紹介した。

創世記(17:3-9)◆契約（covenant）

17:3 アブラムはひれ伏した。神は更に、語りかけて言われた。17:4 「これがあなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。

17:5 あなたは、もはやアブラムではなく、アブラハムと名乗りなさい。あなたを多くの国民の父とするからである。17:6 わたしは、あなたをますます繁栄させ、諸国民の父とする。王となる者たちがあなたから出るであろう。17:7 わたしは、あなたとの間に、また後に続く子孫との間に契約を立て、それを永遠の契約とする。そして、あなたとあなたの子孫の神となる。

17:8 わたしは、あなたが滞在しているこのカナンのすべての土地を、あなたとその子孫に、永久の所有地として与える。わたしは彼らの神となる。」17:9 神はまた、アブラハムに言われた。「だからあなたも、わたしの契約を守りなさい、あなたも後に続く子孫も。

ヨハネ(8:51-59)

8:51 はっきり言っておく。わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない。」

8:52 ユダヤ人たちは言った。「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今はっきりした。アブラハムは死んだし、預言者たちも死んだ。ところが、あなたは、『わたしの言葉を守るなら、その人は決して死を味わうことがない』と言う。

8:53 わたしたちの父アブラハムよりも、あなたは偉大なのか。彼は死んだではないか。預言者たちも死んだ。いったい、あなたは自分を何者だと思っているのか。」

8:54 イエスはお答えになった。「わたしが自分自身のために栄光を求めようとしているのであれば、わたしの栄光はむなしい。わたしに栄光を与えてくださるのはわたしの父であって、あなたたちはこの方について、『我々の神だ』と言っている。

8:55 あなたたちはその方を知らないが、わたしは知っている。わたしがその方を知らないと言えば、あなたたちと同じくわたしも偽り者になる。しかし、わたしはその方を知っており、その言葉を守っている。

8:56 あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」

8:57 ユダヤ人たちが、「あなたは、まだ五十歳にもならないのに、アブラハムを見たのか」と言うと、

8:58 イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」

8:59 すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿の境内から出て行かれた。

ローマ司教（教皇）は次のように説明した。「この時（創世記(17:3-9)）から、神の民はjourney in search（探求の旅）を始めたのです」。この約束が果たされる道、あるいは、それが現実となる道を探す旅が始まったのです。そう、それは一つの約束なのです、と教皇は説明した。「神の民の教父アブラハムに対してa covenantの形式[[1]](#footnote-1)をとった約束なのです」。実に神はアブラハムにこう言いました。「As for you（私（神）によって諸国民の父とされる貴方としては）、私とのcovenantを守り続けなければならない。貴方も貴方の子孫もそれぞれの時代（generations）において守り続けなければならない。」

ですから、と教皇は続けた。「律法（the commandments）はa cold lawではないことが分かります。そうではなく、律法はthis relationship of love, this promise, this covenantから生まれ出た（訳補遺：生き物）なのです。」

またこの日のヨハネによる福音からも教皇は更に考察を深めた。「イエスに石を投げつけようとした律法学者達 -- 当時は善きファリサイ派の人々も善き律法学者もいたのですが – この善くない律法学者達の誤りは、律法と、この約束ないし契約とを別のものだと考えてしまったことです。」つまり「律法と神の御旨、即ち、アブラハムに旅を続けるように命じた神の御旨とを、別のものだと考えてしまったことです。」

教皇は説明を続けた。彼等の誤りの原因は「希望の道（the path of hope）を理解できなかったことにあります。即ち彼等は、この律法を遵守することによって、全てが既に完遂され満了されたのだと思ってしまったのです。」しかしながら、と教皇は続けた。「律法はその起源を、神への愛、神を愛しその恩寵[[2]](#footnote-2)を求めることに見いだします。つまり律法は、いずれはrulesとなりますが、人の道を踏み外さない（not erring）ためのindications（目安）、即ちイエスとの出会いに向かう私達の旅を終着まで見守り続けてくれるindications（旅行ガイド）なのです。」それにもかかわらず「今日の福音、ヨハネ(8:51-59)が言及した人々は、教父アブラハムが神と結んだcovenantと律法の完成とを、結びつけて考えることをしなかったのです。」彼等はひっきりなしに繰りかえします。「私達には遵守（observe）しなければならないlaws（法律）がある！」。確かに彼等は遵守しました。「しかしそれは、彼等が心（hearts）を閉ざしていたからです。新たな物事の全て、預言者達が予言したこと全てに、彼等は精神（minds）を閉ざしていたのです。」彼等にとって唯一重要だったのは、こんなことです。つまり「私達は、こうしゃなくちゃならない。法律的手続きを、こう進めなくちゃならない！」。

これこそ「閉ざされた心と精神が招く悲劇です」と教皇は続けた。「心と精神が閉ざされてしまうと、神が入り込む余地が無くなってしまうのです」。確かに、私達は私達以上の何者でもありません。「人々は『わたしが言うこと』だけをしなければならない」と私達は確信していますし、私達は「律法が教えることを違（たが）わずに」行っています。疑うことはありません。

「しかしイエスにも、閉ざされた精神に確信を与えることは不可能です。新たなmessageを伝えることは不可能です。」しかもそれは実のところ「新たなmessageではありません」。むしろ「神の恩寵と預言者達によって既に約束されたものそのものなのです」。それなのに、ヨハネ(8:51-59)が言及したイエスと論争する者達は「理解しようとしません。つまり、彼等は心を閉ざしていたのです。思考を閉ざしていた。彼等のegoism故に、彼等の罪故に、彼等は心を閉ざしていたのです」。彼等のやり方は「閉鎖思考です。対話に応じず、他の何かがあるかもしれない可能性に開かれていません。この旅は何に似ているのか、神は預言者達とどの様に旅してきたのか、神が私達に語りかける可能性に開かれていません」。教皇は続けた。「間違いなくこれらの人々は預言者の言うことに耳を傾けていません。イエスにも耳を傾けていません」。それどころか彼等のやり方は「単なる頑固を越えています。いや、それ以上です！自分達の思考を偶像崇拝している。つまり『自分にはこう思える。だからこれに違いない。他の方法は無い！』という偶像崇拝です」。

今日の福音に出てくるファリサイ派の人々は「単一思考方法しか持っていません。しかもそれを神の民に強制しようとしました。だからイエスは彼等を批難しました。the peopleの背にこんなにも沢山の律法を負わせたとして批難しました。それらの矛盾点も批難しました」。それは「この様に為されなければならない」という彼等の思考方法に原因がありました。言うなれば「単一思考の奴隷神学」を彼等は採用してしまったのです。その結果「対話の可能性も、神の恒新性（the newness）、即ち神が預言者達を通じて到来を告げる恒新性、に自らを開くことも無くなりました」。正に「これらの人々は預言者達を殺し」同時に「神の約束された扉を閉じてしまったのです」。

「この画一思考現象”The phenomenon of uniform thought”」が原因となって「人類史全体にわたる不幸」が起きてしまうと教皇は言う。「20世紀の最中も私達は何度も見ました。この画一思考法による独裁が、沢山の沢山の人々を殺すのを見ました」。「他に考えようが無いし、こう考えるべきだ」といった意識が、この様な残虐行為を起こした者達を一色に染めてしまったのです。

「21世紀となった今日も」と教皇は続けた。「画一思考は偶像化され続けています。今日、人は皆ある一つの思考法を強いられています。そしてこの思考法を採らないとその人は、近代的でないopenでないと言われてしまいます」。悪くすると、と教皇は言った。「国家が財政的支援を求めてくる多くの場合、ここにいる私達ですら、その国家政府にこう応えてしまいます。『もしそういった地上世界的支援をして欲しいならば、こう考えるほかありません。この法律を制定する・・あの法律・・また別のあの法律を制定するしかありません』」。

この様に「今日も、画一思考による独裁が存在し、この独裁は先述した独裁と同じです」。即ち、今日の福音が記したファリサイ派の人々により制度化された独裁と同じです。行動様式が同じです。今日でも次のような者達がいます。即ち「the freedom of nations, the freedom of the people, freedom of conscience, the people’s relationship with Godに石を投げつけようとする者達がいます。」つまり、今日も再びイエスは十字架にかけられようとしているのです。

だから、「この悪しきファリサイ派 – 勿論、善きファリサイ派もいるのですが -- の話は、昔の話というわけにはいかないのです。心を閉ざした者達は今日もいます。だから、私達の時代の話でもあるのです」。この様な独裁が現れたならば、と教皇は付け加えた。「主の教えは何時も同じです。即ち、***vigilate et orate***、watch and pray、目覚めて祈りなさい」。

最後に教皇は説教をこう結んだ。「愚か者になってはいけません」、同時に、「謙虚になってこう祈りましょう。主よ、私達は常に心を開きます。ですから主よ、開かれた心が持つfreedomを私達にお与えください。そして前途有望な喜びの御言葉をお与えください。これが私達のcovenant。このcovenantを私達は続けていけますように」。

POPE FRANCIS

MORNING MEDITATION IN THE CHAPEL OF THE

*DOMUS SANCTAE MARTHAE*

*The dictatorship of uniformity*

Thursday, 10 April 2014

 (by L'Osservatore Romano, Weekly ed. in English, n. 16, 18 April 2014)

In his homily at Holy Mass, Pope Francis commented on the day’s Readings from the Book of Genesis (17:3-9) and the Gospel of John (8:51-59). The Pope introduced his remarks noting how “the day’s readings set before us God’s promise to our father Abraham” to make him “the father of a multitude of nations”.

The Bishop of Rome explained that “from that moment on, the people of God began to journey in search” of a way for this promise to be fulfilled, for it to become a reality. It was a promise, he said, “which even for Abraham, took the form of a covenant”. God in fact said to Abraham: “As for you, you shall keep my covenant, you and your descendents after you throughout their generations”.

In this way, the Pope continued, “we understand that the commandments are not a cold law; the commandments were born out of this relationship of love, this promise, this covenant”.

Drawing on the day’s Gospel, the Pope expanded upon his reflection: “the mistake of the doctors of the law who were not good and wanted to stone Jesus — at the time there were also good Pharisees and doctors of the law — was to separate the commandments from the promise, from the covenant”; that is, “to separate the commandments from the heart of God, who had commanded Abraham to journey on”.

According to Pope Francis, their mistake came from “not understanding the path of hope: they believed that everything had been completed and fulfilled with the commandments”. However, he said, “the commandments find their origin in love for God’s faithfulness and are rules for going forward, indications for not erring; they help us to continue on until we reach the end of our journey in an encounter with Jesus”. Yet “the people of whom the Gospel speaks today did not know how to connect the fulfillment of the commandments with God’s covenant with their father Abraham”. Continually they repeat: “there are laws we must observe!”. They did so “because their hearts were closed, their minds were closed to everything that was new and to all that the prophets had foretold”. For them the only thing that mattered was this: that “we have to do it this way, and this is the way to proceed!”.

This is “the tragedy of the closed mind and heart,” the Pope said. “When the heart and mind are closed there is no room for God”. Yes, he explained, we are merely who we are, and yet we are convinced that “people have to do only what I say”, and we are certain that we are doing “just what the commandments say”.

“It is impossible for Jesus to convince a closed mind, impossible to give a new message” which, in fact, “is not new” but “is exactly what had been promised by God’s faithfulness and the prophets”. And yet Jesus’ interlocutors “do not understand: their minds are closed, their thoughts are closed, because in their egoism, in their sins, they have closed their hearts”. Theirs is “a closed way of thinking that is not open to dialogue, to the possibility that there is something else, to the possibility that God might speak to us and tell us what the journey is like, and how he journeyed with the prophets”. Surely, the Pope said, “these people had not listened to the prophets, and they were not listening to Jesus”. Yet theirs “went beyond simple stubbornness. No, it was more! It was the idolatry of their own thought: ‘I see it this way, this is how it must be and there is no other way!’”.

The Pharisees in today’s Gospel “had one single way of thinking and they wanted to impose this way of thinking on the people of God. Jesus therefore reproaches them for laying so many commandments on the backs of the people. He reproaches them for their inconsistency”, which resulted from their way of thinking: “this is how it must be done!”. They had adopted a “theology that was a slave to this one way of thinking”. In the end “there was no possibility for dialogue, for opening oneself to the newness that God heralded through the prophets”. Indeed, “these people killed the prophets” and they “closed the door to God’s promise”.

“The phenomenon of uniform thought” has caused “misfortune throughout human history”, the Pope said. “Over the course of the last century we all saw how the dictatorship of uniform thought ended up killing many, many people”. Those who were responsible for such atrocities were of the mind: “it is impossible to think otherwise, one has to think like this!”

“Today too,” the Pope said, “uniform thought has been made into an idol. Today one has to think in a certain way, and if you don’t think in this way you aren’t modern, you aren’t open”. Or worse, he said, many times “when some governments ask for financial help, we here them respond: ‘if you want this help you have to think this way and you have to enact this law and that, and that other’”.

Therefore “today, too, a dictatorship of uniform thought exists and this dictatorship is the same” as the one established by the people described in today’s Gospel. The way of acting is the same. There are those today who “take up rocks to stone the freedom of nations, the freedom of the people, freedom of conscience, the people’s relationship with God. And today Jesus is crucified once again”.

Thus, “this is not a story of long ago, of evil Pharisees — but there were also good Pharisees — of certain people who were closed. It is also a story of our own day”. The Pope added that, in the presence of such dictatorships, “the Lord’s advice is always the same: watch and pray”.

Pope Francis concluded his homily exhorting those present “not to be foolish” and to “be humble and pray that the Lord may always grant us the freedom of an open heart, to receive his word which is full of promise and joy! It is the covenant! And with this covenant may we continue on!”

<http://w2.vatican.va/content/francesco/en/cotidie/2014/documents/papa-francesco-cotidie_20140410_dictatorship-uniformity.html>

1. 訳注：契約者双方が、相手に対して約束したそれぞれの行為を行うという契約形式をcovenantという。ここでは、アブラハム（とその子孫）は神との約束を守り、神はアブラハム（とその子孫）を諸国民の父とする。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 訳注：原英文ではGod’s faithfulnessとあるのを「恩寵」と訳した。「神の誠実」「神の忠実」が直訳的には適している。God’s faithfulnessは、人間（アブラハムとその子孫）と神とのcovenantが結ばれる場面で出てくる表現であり、covenantとは、契約者双方がそれぞれ相手に対し契約行為を行うと約束することで締結される。創世記のcovenantでは、アブラハムとその子孫は、神から与えられるthe commandmentsを履行する。これと代償に神は、アブラハムとその子孫をFather of nationsにする。つまりGod's faithfulnessとは、この代償行為を誠実に忠実に行ってくれることを意味する。 [↑](#footnote-ref-2)